

第27回 渋谷の午後のコンサート。

2025.8.3(日)14:00開演 Bunkamura オーチャードホール
Sun. Aug. 3, 2025, 14:00 at Bunkamura Orchard Hall

第39回 平日の午後のコンサート。

2025.8.5(火)14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
Tue. Aug. 5, 2025, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

《山の思い出Ⅱ》 〈Mountain Memories II〉

指揮とお話 横山 奏 Kanade Yokoyama, conductor & speaker

ヴァイオリン 中野りな* Lina Nakano, violin ゲスト 石丸謙二郎 Kenjiro Ishimaru, guest
コンサートマスター 依田真直 Masanobu Yoda, concertmaster

チャイコフスキー：バレエ音楽『眠れる森の美女』よりワルツ (約5分)
Tchaikovsky: Waltz from ballet "The Sleeping Beauty" (ca. 5 min)

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲より第1楽章* (約20分)
Tchaikovsky: 1st movement from Violin concerto (ca. 20 min)

— 休憩 intermission —

兼松正直：『槍 ～自然の恵みに包まれて～』 (約5分)

Masanao Kanematsu: "Yari - Surrounded by the blessings of nature" (ca. 5 min)

グラズノフ：バレエ音楽『四季』より「秋」 (約11分)

Glazunov: "Autumn" from ballet "The Seasons" (ca. 11 min)

ドビュッシー：月の光 (約5分)

Debussy: Clair de Lune (ca. 5 min)

チャイコフスキー：交響曲第5番より第4楽章 (約12分)

Tchaikovsky: 4th movement from Symphony No. 5 (ca. 12 min)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council

協力：Bunkamura (8/3) / In Association with Bunkamura (Aug. 3)

◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために ♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned. ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed. ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance. ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

8/3

渋谷の
午後の
コンサート

8/5

平日の
午後の
コンサート

出演者プロフィール

指揮とお話

横山 奏

Kanade Yokoyama,
conductor & speaker



©平銘平

1984年札幌生まれ。高校生の時に吹奏楽部に入部して打楽器を担当。北海道教育大学札幌校で声楽を学ぶが、一念発起し指揮者を目指す。桐朋学園にて学び、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程を修了。ダグラス・ポストック、尾高忠明、高関健、中村隆夫、黒岩英臣の各氏に指揮法を師事。2018年、指揮者の登竜門と言われる「第18回東京国際指揮者コンクール」にて第2位&聴衆賞を受賞した。札幌響、都響、読響をはじめとする国内の数多くのオーケストラと共演している。2015-2017年、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員。趣味は登山。NHK-FM「石丸謙二郎の山カフェ」にシーズンゲストで最多登場し、登山とクラシック音楽などのエピソードを紹介し人気を博している。

ヴァイオリン 中野りな

Lina Nakano, violin

2004年生まれ。2021年第90回日本音楽コンクール優勝。2022年第8回仙台国際音楽コンクールにおいて、史上最年少の17歳で優勝、及び聴衆賞を受賞し大きな注目を浴びる。以降、主要オーケストラとの共演やリサイタル等、演奏活動をはじめ、現在最も将来が期待される若手ヴァイオリニストとして高い評価を得ている。

2023年4月より現在桐朋学園大学「ソリスト・ディプロマ・コース」に特待生として在学し、辰巳明子に師事。また、ウィーン市立芸術大学ではカルヴァイ・ダリボルに師事し研鑽を積んだ。ルームミュージックファンデーション2023年度及び2024年度奨学生。使用楽器：1702年製アントニオ・ストラディヴァリウス〈ライアル〉（一般財団法人ITOHより貸与）。



©kisekimichiko

ゲスト 石丸謙二郎

Kenjiro Ishimaru, guest

1953年生まれ、大分県出身。俳優。つかこうへい舞台『いつも心に太陽を』（1978年）でデビュー。1987年からは、テレビ朝日系『世界の車窓から』のナレーションで、人気を博す。2018年より、NHKラジオ『石丸謙二郎の山カフェ』のパーソナリティー。落ち着いたトーンの声質と渋みのある演技で、テレビ・舞台・映画と幅広く活動。プライベートでは多趣味なアウトドア派。ウインドサーフィン、登山、フリークライミング、ピアノ、釣りを趣味としている。著書『山は登ってみなけりゃ分からない』シリーズ（敬文舎）、画文集『野筆を片手に』（モンベル出版）。

<https://ishimaru-kenjiro.com/>



プログラム・ノート

解説=飯尾洋一

山と自然を感じる音楽のひとつ

俳優、ナレーターの石丸謙二郎は登山歴40年。NHKラジオ「石丸謙二郎の山カフェ」パーソナリティとしても活躍しています。この番組のシーズンゲストとして登場したのが、同じく登山を趣味とする指揮者の横山奏です。登山談義の尽きないおふたりが、昨年に続いてふたたび「午後のコンサート」に出演。登山を巡るトークとクラシック音楽の名曲をお届けします。

大自然は古くから作曲家たちのインスピレーションの源となってきました。豊かな自然を創作力の源にしたチャイコフスキー、季節の変化を音楽に盛り込んだグラズノフ、月の光を題材にした傑作で知られるドビュッシー。現代の作曲家たちにとっても、自然の大切さは変わることがありません。兼松正直作曲の『槍～自然の恵みに包まれて～』は、雄大な槍ヶ岳の姿が題材となっています。オーケストラが持つ豊かなサウンドが、聴く人のイマジネーションを刺激してくれることでしょう。



今年も豊かな自然にインスピレーションを受けた美しい音楽の数々を軽妙なトークとともにお楽しみください

美しい旋律の流麗なワルツ

『眠れる森の美女』の物語は、童話や映画を通して広く親しまれています。長く子宝に恵まれなかった王と王妃の間に、待望の王女オーロラが誕生し、祝宴が開かれます。悪い妖精がオーロラ姫に「16歳になったら紡錘^{つむぎ}に指を刺されて死ぬ」という呪いをかけますが、リラの精が「死ぬのではなく100年の眠りにつき、王子の口づけで目を覚ます」と呪いをねじまげます。予言通り、オーロラ姫は16歳で100年の眠りにつきますが、城を訪れた王子の口づけによって目を覚まします。

ピョートル・チャイコフスキー(1840-1893)は、サンクトペテルブルグのマリンスキー劇場からの依頼を受けて、**バレエ音楽『眠れる森の美女』**を作曲しました。振付けはマリウス・プティパ。1890年の初演は大成功とは言えませんでした。上演回数を重ねるにしたがって人気を高めました。



全曲中、とりわけ有名なのが、この第1幕のワルツ。高揚感あふれる序奏に続いて、流麗な旋律が奏でられます。

レマン湖の湖畔で作られた雄大な協奏曲

スイス西部レマン湖の湖畔にクラランという風光明媚な村があります。1878年、チャイコフスキーはクラランに滞在して、療養していました。早まった結婚が失敗に終わったことから、チャイコフスキーはすっかり心身を消耗していたのです。

そこに訪れたのが、親密な間柄だったヴァイオリニスト、ヨシフ・コーテク。コーテクが持参した楽譜にはラロの『スペイン交響曲』がありました。実質的にヴァイオリン協奏曲であるこの曲に触発されて、チャイコフスキーは**ヴァイオリン協奏曲**の作曲に取り組みます。独奏パートの技法にはコーテクの助言が取り入れられ、曲は一気呵成に書き上



ヨシフ・コーテク(左)
とチャイコフスキー
(右)

8/3

渋谷の
午後のコンサート

8/5

平田の
午後のコンサート

げられました。

ところが、1881年のウィーンでの初演は不評を買います。著名な批評家ハンズリックには「悪趣味なものを作ることにかけては並の才能ではない」と酷評される始末。しかし、時を経るとともに作品の真価が認められ、現在ではもつとも人気の高いヴァイオリン協奏曲のひとつとなっています。甘美なメロディを伴って、雄大でドラマティックな楽想が展開されます。

自作について

◎兼松正直：『槍～自然の恵みに包まれて～』

文=兼松正直

この曲は、テレビ松本ケーブルビジョン創立50周年記念事業として「槍ヶ岳4K映像」イメージミュージックの公募で採用された楽曲です。

私は昔から美しい自然や壮大な景色に心を惹かれることが多く、公募で求められる音楽に運命的な衝撃を受けました。

槍ヶ岳は飛騨山脈南部にある日本で5番目に高い山で、鋭角に天を突く槍のような山の形をしています。

山から朝日が昇り槍ヶ岳を煌々と照らす、風が吹き高山植物が揺れる、槍ヶ岳を開山された播隆上人に思いを馳せる、山頂から望む自然の恵みに感謝する……そのような広大なイメージが浮び曲を書きました。

槍ヶ岳に登ったことがある方もそうでない方も、音を通して思い思いに「槍ヶ岳の自然と雄大さ」を感じながら聴いていただけると幸いです。

最後に、指揮者の横山奏様、東京フィルハーモニー交響楽団の皆様、そして観客の皆様および各関係者様に心より感謝、御礼申し上げます。



収穫の秋を祝う喜びの音楽

アレクサンドル・グラズノフ (1865-1936) は、チャイコフスキーの次の世代のロシアを代表する作曲家です。早熟の天才として知られ、交響曲、協奏曲、バレエ音楽など多数の作品を残しました。**バレエ『四季』**の初演は、1900年、サンクトペテルブルクにて。チャイコフスキーの『眠れる森の美女』と同じく、マリウス・プティパが振付を担いました。

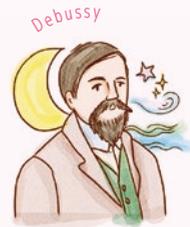


四季を題材にした楽曲はたくさんあります。いちばん有名なのはヴィヴァルディの『四季』でしょう。ほとんどの場合、四季は春から始まって冬で終わります。しかし、グラズノフの『四季』では、冬から始まって秋で終わるのです。つまり、この「秋」は全体のフィナーレ。辛く厳しい冬で始まり、収穫の秋で祝祭的に幕を閉じるという構成になっているのです。

収穫を祝うバックナール（酒神をまつる祝祭）の音楽から喜びがほとぼりします。

静かな夜を照らす月の光

フランスの作曲家**クロード・ドビュッシー** (1862-1918) の作品にはしばしば月や光の表現が登場します。ドビュッシーは月、星、光、風、波、海など、さまざまな自然現象を題材とした楽曲をたくさん書いています。1890年に作曲したピアノ曲『ベルガマスク組曲』の第3曲は「月の光」。ドビュッシーの作品のなかでも、とりわけ広く親しまれているのがこの曲です。当初、「感傷的な散歩」と題されていましたが、後に「月の光」の題に改められました。原曲では、ピアノの澄んだ音色が、静かな夜を照らす月の光を連想させます。今回はオーケストラのための編曲でお楽しみいただきます。ピアノとはまた違った、カラフルな音色を用いた「月の光」を聴くことができるでしょう。



8/3

渋谷の
午後のコンサート

8/5

平田の
午後のコンサート

運命との闘争、輝かしい勝利

1888年、チャイコフスキーは前作から10年ぶりとなる**交響曲第5番**を書きあげます。この10年間にチャイコフスキーの名声は大きく高まり、西欧にも活躍の場が広がっていました。初演は作曲家自身の指揮でサンクトペテルブルクで行われました。その後、各地で再演を続けましたが、チャイコフスキーは作品の出来ばえに確信が持てません。実はこの曲は失敗作なのではないか。そんな猜疑心に苛まれ、一時は「第5番を火に投げこむつもりでいた」と言います。

しかし、名指揮者アルトゥール・ニキシュがこの曲を指揮して各地で成功を収めると、チャイコフスキーは作品への信頼を回復します。指揮に自信が持てないチャイコフスキーでしたが、名指揮者が曲の真価を引き出してくれたのです。

本日演奏されるのは、全体のフィナーレにあたる**第4楽章**。厳かな「運命のモチーフ」で開始され、運命に抗うような闘争的な楽想が続きます。最後に「運命のモチーフ」が高らかに奏でられ、輝かしい勝利が訪れます。



いいお・よういち(音楽ジャーナリスト)／著書に『クラシック音楽のトリセツ』(SB新書)、『R40のクラシック』(廣済堂新書)、『マンガで教養 はじめてのクラシック』監修(朝日新聞出版)、『クラシックBOOK』(三笠書房)他。雑誌やウェブ、コンサート・プログラム等に幅広く執筆する。テレビ朝日「題名のない音楽会」他、放送でも活動。